

サンワ・リノテックがお届けするお得な記事満載の情報紙。 きっとお役に立ちます。

ユ—ザ—様訪問

(株)インターアクション(本社=大阪市・河村 広明社長)は廃棄物・リサイクル資源の収集・運搬作業の効率化を追求している企業です。主力製品はリサイクル資源の分別・収集・運搬に最適な「リレーバッグ」で、通称フレコンバッグと呼ばれています。

アスベスト含有廃棄物は以前、通常の廃棄物と同じようにダンプカーで最終処分場まで搬入されていました。しかし平成18年7月に環境省から「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」が公表されてから、収集運搬・処理業者や排出事業所から同社の「リレーバッグ」を石綿含有廃棄物の運搬用として使いたいという問い合わせが多くあり、ニーズにマッチした製品の開発、販売を行っています。

同社のアスベスト含有廃棄物(レベル3)の取組みについて河村社長から話しをお聞きました。



株式会社 インターアクション
代表取締役 河村 広明氏

—まず会社の概要についてお話し下さい。

河村 当社は2000年6月14日に設立して、今年14年目になります。事業のコンセプトは「リサイクル物流をサポートする」です。具体的には産業廃棄物・リサイクル資源の業界向けに分別の容器を開発し、提供しているということで立ち上げた会社です。

主力製品は「リレーバッグ」というフレコン素材を使った運搬容器です。廃棄物業界・リサイクル業界の作業現場で使うもので、当初は6種類程度でしたが、大きさやバリエーションを増やして今では50種類以上になっています。

—リレーバッグは名前が通っていますね。つぎに河村社長のプロフィールをご紹介ください。

河村 大学卒業後就職しましたが、そこを退社してから人生の方向を考える期間が5年ほどありました。その期間中に容器に携わる仕事をしました。その頃はまだ廃棄物を入れるのにフレコンバッグはあまり浸透していませんでした。「まだ知れ渡っていないので将来性があるのではないか」と事業を起こしたのが始まりです。

それと時流がリサイクルの法制化にどんどん進みました。最初に循環型社会形成推進基本法が制定され、容器包装、家電、建設、食品、自動車といろいろなリサイクル法ができました。

20年ほど前は産業廃棄物業界とリサイクル業界は、垣根がはっきり分かれていました。ゴミと資源は全く別の業界だったのです。ところが、日本は資源国でないので分別して、ゴミの中から資源に回せるものは有効に活用する。ゴミを少なくし資源を大事に循環していく。そういうことがリサイクル法制定の背景だと思いますが、法制化と同時に廃棄物業界の人たちは危機感を覚え、リサイクル業界で生計を立ててこうという動きが出てきました。逆に、リサイクル業の人たちは、資源を回収するために廃棄物と一緒に引き取

ったり、運ぶのに産業廃棄物の許可を取るなど、廃棄物とリサイクルの両方をやる会社が多くなってきました。

廃棄物を資源に変えるにはまず分別をしなければいけません。当社は中小企業なので一点集中で産廃・リサイクル業界に特化して、当社のフレコンバッグを使ってもらいこの業界で認知してもらうよう努力してきました。

—注目されている用途はどんな分野ですか？

河村 お客様のニーズに合わせた製品を提供していく中に、アスベスト廃棄物を入れる袋があります。アスベスト廃棄物はもともとリサイクル資源とは相反するもので、有害廃棄物というカテゴリーに入ります。建築解体現場には資源もあるし、廃棄物もあり、いろいろなものが混在しています。建設リサイクル法ができてからは、何でも一緒に処理するミンチ解体はできません。建物の解体で、鉄は鉄、木は木というように分別をして、有効に資源を使っていくようにという法律もあります。

アスベスト含有廃棄物を壊すとアスベストが飛散してしまいます。有害ですから慎重に対処しなければいけません。レベル1・レベル2のアスベストは社会的にクローズアップされ、公共施設は急ピッチで除去されました。それに比べてレベル3のアスベスト含有廃棄物の処理は今まで隠れた部分でしたが、今後増えてくるでしょう。

当社のお客さんで大手の自動車メーカーの産業廃棄物処理をしている会社があります。工場を改修、解体する際に、壁のスレートを取り外す作業がありました。その時の条件は適正な処理をしてほしいとの要望です。適正処理は何かというと「スレートを割らずに処理する」ということでした。「割らずに運びたいが適した袋はないか」と問合せがありました。サイズを聞くと3尺×6尺(90cm×180cm)と言うことでした。そのサイズに合う袋としてすぐにロングタイプのフレコンバッグを開発しました。

また別のお客さんから、アスベスト専用として使用するリレーバッグの表面に「石綿含有産業廃棄物」という文字を入れてくれという注文がありました。それは別注品として納入しました。

—最終処分場の状況はいかがですか？

河村 アスベスト建材を使った建物を工事する場合、まず工事する元請会社がアスベスト処理の計画を立てますが、実際の廃棄物処分地については、産業廃棄物収集運搬の業者さんに聞いたりするケースが多いようです。

アスベスト含有廃棄物をどこで処分するかというと、ほとんどは「安定型最終処分場」もしくは「管理型最終処分場」で埋め立て処分されています。公共関与の最終処分場については「管理型最終処分場」が多く、民間については「安定型最終処分場」が多いです。ただ「安定型最終処分場」では、アスベスト含有廃棄物の受け入れをしていないところも多くあります。

—最終処分場の管理型と安定型はどのように違うのですか？

河村 埋め立て処分される廃棄物の環境に与える影響の度合いによって分類されています。性状が安定している廃棄物は安定型、
(裏面に続く)

(表面より) 廃棄物の飛散・流出の防止・物理的な強度の確保などが必要な場合は管理型と処理方法が異なります。

最終処分場の問題は、管理型でも安定型でも許可されている容量に限度があることです。どんどん廃棄物が運ばれると処分場は受け入れる量が一杯になってしまいます。新たな処分場を作るのは地元の反対運動でほとんど不可能です。そこで既存の処分場では単価を上げて受け入れする量を少なくするなど工夫をしています。

関西の公共の処分場は大阪湾に「大阪湾広域臨海環境整備センター」(大阪湾フェニックスセンター)があります。ここも処分場の受け入れ容量が決まっています、何年か後に受け入れが終了するといわれています。このセンターは滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県をはじめ地方公共団体174団体によって構成されています。そのなかに、泉大津処分場があります。ここはアスベスト含有廃棄物の受け入れを行っており、弊社ロングタイプは多くの搬入実績があり、好評をいただいています。

—アスベスト関係はいつ頃から本格的に手掛けられましたか？

河村 きっかけは、先ほどお話しした自動車工場の件で、長尺用フレコンバッグを開発しました。このフレコンバッグは現場での作業性が高いと好評です。一体になっているので安全ですし、トラックへの積み込み作業も効率的です。

ロングタイプの本格的な生産のきっかけは前述の「大阪湾広域臨海環境整備センター」です。取引先の会社に相談したら、サンプルとプレゼン資料を持って行って紹介してくれました。処分場の現場の人からは「吊り上げが非常に楽で作業がしやすい」という支持をいただいています。

—通常アスベスト含有廃棄物はどのように梱包しているのですか？

河村 アスベストの処理には3つのレベルがあります。レベル1・レベル2に関しては、国の方針による統一的な処理基準により専用の袋によって処分されています。しかし、レベル3については、関連管轄省庁から破砕しないよう通達が出されていますが、厳密な処理基準が確立されていません。よって、受け入れ最終処分場の受入基準に従って梱包しているのが現状です。成形板などを割らないようにポリエチレンシート(0.15mm厚以上)やブルーシートで梱包する現場もあれば、フレコンバッグに梱包するためにわざわざバッグに収まるサイズに砕く現場もあります。また、湿潤するだけで梱包せずそのまま搬出する現場もあります。

—貴社では最終処分地のデータベースを構築されているということですが、これについてお話し下さい。

.. 民間・公共両方の最終処分場について調査しました。当社は長尺のフレコンバッグを全国の解体現場で使っていただきたいという目的をもっています。そこで全国のどの処分場に受け入れてもらえるかをヒアリングしました。

まず最終処分場は、どういう廃棄物の処分が可能かという項目があります。レベル3のアスベスト含有廃棄物は瓦礫類に該当します。少し前までは瓦礫類は一つだったのですが、今は通常の瓦礫類とアスベスト含有瓦礫類の二種類に分けられています。

瓦礫類の許可を持っている最終処分場でも、アスベスト含有廃棄物を受け入れるかどうかわかりません。それで各処分場に受け入れ可能を確認しました。

受け入れがOKの場合は、どういう梱包形態で持って行ったらいいか、梱包は一重なのか二重なのか、基準の価格はいくらか、受け入れ可能地域はどこか、持って行ったら中身を検査するか—などを聞きました。

北海道から沖縄まで調べた資料が『ロングタイプのアスベスト含有建材(レベル3)受け入れ可能処分場一覧』です。ここまでまとめた資料は他にないと思います。



アスベスト含有廃棄物受け入れ処理場をまとめたデータ一覧

—アスベスト関連の今後の展開についてどうぞ。

河村 アスベスト含有建材を使った建物の解体のピークは2020年頃で、2035年頃までアスベスト廃棄物の排出が続くと予測されています。

今後の展開としては、当社の製品を使って適正処理していただきとアピールしていきます。現在アスベスト関連事業は全体の売上の約20%です。全国的に見て、アスベスト処理をしても、まだまだロングタイプを知らない会社も多く、今後有望な市場だと見えています。

—どうもありがとうございました。

サンワ・リノテック(株)からの一言

*レベル3のアスベスト含有廃棄物の処理についてのお話は非常に参考になりました。レベル1・レベル2について、当社はこれまでも価値ある情報を積極的にお届けしてまいりました。さらに幅広い情報を提供するため、インターアクションさんと資材や情報を補完しあってこの分野で顧客への啓蒙活動を共有していけたらと願っています。

*インタビュー中にも出てきたように、法制は適宜改定されています。最近のニュースで、近鉄高架橋下の貸し店舗で文具店を営んでいた男性が、中皮腫で死亡したのはアスベストが原因とした訴訟で、大阪高裁判決を破棄し審理を差し戻す最高裁の判決が出ました。店舗がいつから安全性を欠くようになったか確定させる必要があるのに、審理されていないことが理由らしいけど「吹き付け石綿を含む石綿の粉じん」にばく露したことによる、健康被害の危険性に関する科学的な知見及び一般人の認識並びに様々な場面に応じた法令上の規制の在り方を含む行政的な対応等は時とともに変化しています」こうした動向は、今後も注目していく必要があります。

*アスベストの検査方式に、欧米普及法とJIS法を併存させる案が、年内にも一般財団法人から経産省に提示される動きがあります。これからは、分析者の養成など各方面に大きな影響を与えそうです。

編集後記

今回は、(株)インターアクション、河村社長にお願い致しました。

今後増大するであろう、レベル3のアスベスト含有廃棄物の処理、特に工場のスレートのようにそのものを割らずに運ぶ為の、長尺物に有効な長尺フレコンバッグの開発、独自に全国の受け入れ可能処分場の一覧を作成、安定型や管理型の最終処分場についてのわかり易く解説されアスベスト処理から最終処分までをいろんな角度からお話を伺えました。

特に関連業界の皆様には明日からのお仕事にお役立て頂けることと思えます。河村社長有難う御座いました。

(文責: 寺嶋)

発行

作業現場の快適のために—
レンタル、販売から工事施工まで

Sanwa Renotech 〒551-0033 大阪市大正区北恩加島1丁目17番4号
TEL 06(6551) 0024 FAX 06(6554) 1057
サンワ・リノテック株式会社
東京営業所 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-16-2702
www.sanwa-renotech.com TEL 03(6912) 8292 FAX 03(6912) 8293